奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年四月度　入賞句一覧　　投句数　九百七十六句

遠藤　幹郎　選

特選

ひらひらとおちたさくらをポケットに　　大垣市　安田　紗英（小六）

「ひらひらと」と、「ポケットに」がいいですね。作者は、桜の花びらが散る様子をじっと眺めていたのでしょう。その花びらが散るさまを「ひらひらと」と表現したところがいいですね。そして、地面に散り落ちた花びらをそっと拾ってポケットに入れたというのです。作者のやさしい人がらが、ほんぼのと伝わって来ます。

手のひらに桜をのせる妹よ　　加茂郡川辺町　藤田　未唯（中二）

「妹よ」に、妹のかわいらしいしぐさに、目を細めている作者の姿が浮かんできます。妹を連れだって、お花見に出かけたのでしょう。すこし散り始めた桜の花びらを、小さな手のひらいっぱいに広げて、うまく受けとめることができて喜ぶ妹の様子も想像できて、読み手の心を引きとめる一句です。

かあさんとこぼれるぐらいつくしとり　　大垣市　井上　しゅん太ろう（小三）

「こぼれるぐらい」が、よく効いた一句です。たくさんのつくしをとることができたのでしょう。どんな入れ物を持って出かけたのでしょう。おかあさんと一緒につくしとりに行くのを前から楽しみにしていたのでしょう。きっと、声をはずませながら、つくしとりに興じていたことでしょう。

秀逸

花いかだ川一面にしきつめる　　加茂郡川辺町　松岡　陽向（中二）

通学路春のにおいにつつまれる　　加茂郡川辺町　堀井　咲来（中二）

たんぽぽがわたげにへんしんとんでいけ　　大垣市　谷田　こうしろう（小三）

はるかぜがわたしのほっぺをさすったよ　　大垣市　杉山　柚月（小三）

かわくだりのってるひとにはなふぶき　　大垣市　はやの　ここみ（六歳）

夜の空ぼんやり光るおぼろ月　　大垣市　前田　瑶実（小四）

つばめとぶすごいはやさでとんでいく　　大垣市　福崎　佑斗（小四）

とうめいのボールがゆらゆら石鹸玉　　大垣市　富田　凱翔（小六）

満開の桜のトンネルくぐる舟　　大垣市　傍島　結（小六）

春風が中学校へ後おしだ　　大垣市　伊藤　鴻甫（中一）

入選

小中学生の部

蒲公英のわたげが風に乗って舞う	加茂郡川辺町	木下　瑛介（中二）
春の風感じる朝の通学路	加茂郡川辺町	渡辺　かずは（中二）
こいのぼり成長見守る空高く	加茂郡川辺町	栗本　愛佳（中二）
さくらがねながれるようにとんでゆく	大垣市	細川　れん（小三）
くさのなかかおをだしたのふきのとう	大垣市	内藤　光咲（小三）
ひなまつり歌を歌ってひなかざり	大垣市	ほり川　あんじゅ（小三）
はるの月きれいに川にうつってる	大垣市	大辻　あいな（小四）
来年もまた会いたいなおひなさま	大垣市	冨田　梨央（小四）
しゃぼん玉とおくへいってわれちゃった	大垣市	大橋　万葉（小四）
風光り河原の小石が光ってる	大垣市	大場　孝太郎（小六）
さくらちるふねの中にきえてゆく	大垣市	日髙　由希菜（小六）
舟くだり桜がまって川にうく	大垣市	坪内　美月（小六）
よるのそらほしいっぱいのおぼろづき	大垣市	清水　花音（小六）
花びらよどこへ行くのか散る桜	大垣市	河合　想乃香（小六）
はるやすみたのしいひびがまっている	大垣市	青山　了平（小六）
菜の花がいちめんさいて真黄色	大垣市	川瀬　結愛（小六）
雨あがり空を見上げる春の虹	大垣市	三輪　有希（小六）
まっさおな雲一つない春の空	大垣市	前川　政季（小六）
風船が大空にへととんでいく	大垣市	野村　美羽（小六）
石ぼん玉いっぱいでてくるたのしいな	大垣市	林　俐仁（小四）

選者吟

まろやかに蕾ふくらむ白牡丹　　幹郎